

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
海田町立海田小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

学級数	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
	2	2	2	2	2	2	12	3	15

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
算数	5	1	5	5	
理科	5	2	3	6	
理科	6	2	3	6	
外国語	5	2	2	4	

授業時数 計 21 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
				0	

授業時数 計 0 (b)

授業時数 合計 21 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画




教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1
6年 1組 (担任: A)	A	A	A	A	推進	専科	A	A	A	専科	A	A	A
6年 2組 (担任: B)	B	B	B	B	推進	専科	B	B	B	専科	B	B	B
教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1
5年 1組 (担任: C)	C	C	C	推進	推進	専科	C	C	C	推進	C	C	C
5年 2組 (担任: D)	D	D	D	D	推進	専科	D	D	D	推進	D	D	D

4 高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数	授業時数の合計
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
6-1	31	A				0	22.6	22.6
6-2	32	B				0	22.6	22.6
5-1	27	C				0	17.6	17.6
5-2	28	D				0	22.6	22.6

5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

〈効果のあった取組〉				
教科担任及び専科による授業の実施 				
②	教科担任及び専科と担任による情報交換 			
③	児童が計画的に行う課題(締切のある宿題) 児童が関わる教員の増加			
④	授業時間外の教材準備			
⑤	校内研修の充実 ・学校全体のベクトルを揃える研修 「学年年間構想」「海小つながりプログラム」の作成 ・振り返りの充実についての研修 ・全国学力学習状況調査の分析 ・理論研修 ・授業研究(全体研修・ブロック研修)等 			
	<table border="1"> <tr> <td> <b>ホップ</b>                              ◎学習して分かったこと                              ◎分からなかったこと                              ◎できるようになったこと                              ◎はじめて知ったこと                              ◎なるほどと思ったこと                         </td> <td> <b>ステップ</b>                              ◎まねしたい考えや方法                              ◎今まで学習したこと                              ◎つながりを挙げて書く                              ◎理由や根拠を挙げて、「ホップ」の内容を書く                         </td> <td> <b>ジャンプ</b>                              ◎どう生活に生かすか                              ◎学ぶ前との変化                              ◎もっと知りたいことや                              ◎できるようになりたいこと                              ◎次の学びにどう生かすか                         </td> </tr> </table>	<b>ホップ</b> ◎学習して分かったこと ◎分からなかったこと ◎できるようになったこと ◎はじめて知ったこと ◎なるほどと思ったこと	<b>ステップ</b> ◎まねしたい考えや方法 ◎今まで学習したこと ◎つながりを挙げて書く ◎理由や根拠を挙げて、「ホップ」の内容を書く	<b>ジャンプ</b> ◎どう生活に生かすか ◎学ぶ前との変化 ◎もっと知りたいことや ◎できるようになりたいこと ◎次の学びにどう生かすか
<b>ホップ</b> ◎学習して分かったこと ◎分からなかったこと ◎できるようになったこと ◎はじめて知ったこと ◎なるほどと思ったこと	<b>ステップ</b> ◎まねしたい考えや方法 ◎今まで学習したこと ◎つながりを挙げて書く ◎理由や根拠を挙げて、「ホップ」の内容を書く	<b>ジャンプ</b> ◎どう生活に生かすか ◎学ぶ前との変化 ◎もっと知りたいことや ◎できるようになりたいこと ◎次の学びにどう生かすか		

〈課題〉	
①	学びの幅を広げ、授業の質をより向上させていく必要がある。
①	教科の専門性を高める研修を行い、内容を広く還元していく。

〈成果〉	
①	教材を深く理解することで、授業の質が向上し、児童の学力向上につながった。令和7年度全国学力学習状況調査の正答率は、算数科が62%(県正答率59%)、理科が67%(県正答率59%)だった。 令和7年度標準学力調査の正答率は、第5学年算数科が69%(全国正答率62%)、第5学年理科が76.6%(全国正答率65.4%)、第6学年理科が70.6%(全国正答率66%)だった。 第2回小学校教科担任制に関するアンケートでは、「教科担任制で学ぶことで、勉強の内容がよく分かるようになった。」と回答した児童は86.9%だった。
②	SSR(スペシャルサポートルーム)における児童の見取りや個に応じた支援の在り方を生かしながら、複数で児童を見ることで、多面的な児童理解につながった。さまざまな場面における児童の姿を見ることができたため、児童の良さやがんばり、変化や成長に気づき、共有することができた。その結果、児童の自己肯定感も高まってきている。全国学力学習状況調査の質問紙では、「自分には、よいところがあると思いますか。」という問いに90.5%の児童が、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」という問いに92.1%の児童が肯定的に回答している。
③	「1週間後までに取り組んで提出する」など、締切付きの課題を出すことで、自分で学習の計画を立て、期日までにやり遂げる習慣を身に付けることができた。また、関わる教員が増え、中学校での生活をイメージすることができた。第2回小学校教科担任制に関するアンケートでは、「教科担任制で学ぶことで、いろいろな先生と話す機会が増えた。」と回答した児童は86.9%だった。
④	授業以外の時間を教材準備等に充てることのできるため、教材研究を十分に行ったり、児童のノートや成果物を丁寧に見たりすることができ、授業の質の向上にもつながった。
⑤	「学年年間構想」や「海小つながりプログラム」の作成により、各学年の目標や目指す児童像を教員間で共有でき、それに合った指導方法を考え、実施する取組を進めることができた。 振り返りの充実を図るために、振り返りの視点(ホップ・ステップ・ジャンプ)を活かした指導ができるよう、研修を実施し、評価のコメントを実際に記述したり、互いに見合ったりした。 全国学力学習状況調査の結果分析を全職員で行ったり、ブロックや全体での授業研究を通して、学校全体としてどのように取組を進めるかを考えたりすることができた。

〈対策〉	
①	個別最適な学びに関する研修を実施したり、具体物やICT機器を効果的に活用したりして、授業改善につなげていく。
①	各教科で目指す資質・能力にあった授業づくりを行い、その内容や使用した教材などをデータベース化したり、成果を研修や通信等で共有したりする。